

Title	解題：C・ズウェブリン著 世界で最初の社会学的実験室
Sub Title	
Author	藤田, 弘夫(Fujita, Hiroo)
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2002
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要：社会学心理学教育学：人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.55 (2002.) ,p.93-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	解題
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000055-0093

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

【解題】 C. ズウェブリン著 世界で最初の社会学的実験室

本稿は、Charles Zueblin, The World's First Sociological Laboratory, *The American Journal of Sociology*, Vol. 4, No. 5, 1899. の翻訳である。

ズウェブリン (Charles Zueblin) はシカゴの都市研究者である。かれは有名なジェーン・アダムス (Jane Adams) のセツルメントであるハル・ハウス (Hull House) とも関係していた。かれはスコットランドのエディンバラで、P.ゲデス (Patrick Geddes) に学んだ。ゲデスは 1886 年以來、アウトルック・タワーでサマー・セミナーを開いていた。そこには世界中から学者が集まっていた。ズウェブリンはセミナーへの常連の出席者であった。かれは大西洋を船で越えて、エディンバラに向かったのである。ズウェブリンのこの論文は思い出の論文でもある。

この論文が書かれた翌年の 1900 年にはゲデスが、アメリカを訪問する。その際、ゲデスはシカゴに立ち寄り、ズウェブリンと再会している。ズウェブリンは 1908 年に大学を去るまで、シカゴ大学の都市研究を担っていた。しかしかれの名はパーク (Robert Ezra Park) やバージェス (Ernest W. Burgess) の登場で、その陰に隠れてしまった。それどころか、シカゴ大学社会学部内における社会学観の変化とともに意識的に無視されてきたといってもいいだろう。ゲデスの名はかれに私淑した L. マンフォードとともに、社会学者のあいだで論じられることはなくなった。その後のシカゴ学派につらなる研究者はズウェブリンの名に触れることはなかった。日本の社会学者でも、かれに言及した人はほとんどいない。かれの名はわずかな研究書に散見される程度となっている。

ズウェブリンが「世界最初の社会学的実験室」とよんだアウトルック・タワー (Outlook Tower) は、現在もエディンバラ城に続くロイヤル・マイルを上りきったところにある。建物にはゲデスの肖像のついたプレートが付いている。道路の反対側にはウィスキー博物館がある。エディンバラ城に向かってこの建物から左側に下る階段には、かれの名前がついたパトリック・ゲデス通り (Patrick Geddes Steps) がある。エディンバラへ観光に出かけると、必ず通る道なので、時間のある方は一度立ち寄ってみることをお奨めする。一階はお土産売り場、2 階以上は博物館となっており最上部は興味深い展望台となっている。現在のアウトルック・タワーの外観については、本誌前号の『社会学研究科紀要』第 54 号の藤田論文に写真が掲載されているので、興味をおもちの方は参照されたい。

(藤田弘夫)

